

# 浜松市立三方原中学校

浜松浜北宮口湿地の保全と郷土に生きる生物



浜名湖

## 地元湿地の保全から広がる研究

### プレゼンコンテストの入賞常連校

古戦場としても有名な地に建つ浜松市立三方原中学校の理科部では、静岡県西部農林事務所の育種場内にある湿地の保全と研究を行っている。同湿地は地元の団体「遠州自然研究会」の高齢化で保全活動が滞り、雑草が繁茂していたが、担当の杉浦享一教諭によると「2022年度に理科部が草刈りを行ったことで、湿地の貴重な動植物が育つ環境が戻ってきました」と話す。

こうした保全活動の一方、研究活動ではテナガエビ、ヤマトヌマエビなどの飼育やサクラバハノキなどの植生調査、さらには岩石や不透水層から湿地の成り立ちを探る研究も行ってきた。その成果は静岡県などが主催する小・中学生理科研究プレゼンテーションコンテストなどで発表し、入賞の常連校となっている。



三方原中学校理科部の部員たちと顧問の杉浦教諭(左)、副顧問の瀧口大生(ひろき)教諭(右)



湿地保全のための草刈りの様子



湿地の地質とも関係する浜名湖畔のチャート地層を観察

### 研究テーマは「興味をもったこと」

研究テーマについて杉浦教諭は「部員自身が興味をもったことを対象にすることで、自主的に調べるようになります」と言う。

その言葉どおり、ともに「湿地植物の一生に興味がある」と話す2年の本多里瑚さん、滝澤遼さんは「水温や気温の違いによる植物の成長や、少し離れた葦毛湿原(愛知県豊橋市)との植生の違いなどを調べています」と言う。また、不透水層を研究する3年の伊藤琉太郎さんは「湿地を歩くと足を取られる場所があって、そこが粘土や火山灰でできた不透水層だと知って興味をもちました」と研究動機を話す。2年の本田宙さんも「雨の後の湿地で、いろいろなところから水が出ていたのを見て、水の流路を調べることにしました」と言う。

ほかの部員たちも「普段から、自分が興味や疑問をもったことをより深く調べるようになりました」と話しており、杉浦教諭の狙いどおりの効果が表れていた。(個別助成)



2022年度成果発表会でのポスター発表



湿地の土を採取し、不透水層を調べる



#### ●実施担当

杉浦享一 教諭

#### ●活動のモットー

興味をもったことは自分で考えて調べること。そして、わかったことを周りに説明できるようにすることで科学的な力を養う。

#### 学校概要



戦後の国策事業で開拓された三方原の地に建つという経緯もあり、「大地に育め 自立 共生」を校訓として掲げる。

設立: 1984年

生徒数: 701人

所在地: 浜松市北区豊岡町196番地

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団

〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

中谷財団

検索

シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

